

機関番号：32643

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520245

研究課題名（和文）イングランド国教会の宗教的言説とシェイクスピア

研究課題名（英文）Shakespeare and the Religious Discourse of the Church of England

研究代表者

郷 健治（GO KENJI）

帝京大学・外国語学部・教授

研究者番号：50266285

研究成果の概要（和文）：イングランド国教会の『欽定説教集』二巻のエリザベス朝諸版（1559-1595）とその reprint 版であるとこれまで誤解されてきたジェームズ朝版（1623）のテクストの比較研究を行い、じつは後者が前者を大幅に改訂した版であり、また、多くの誤植を含む問題の多い版であったという事実を詳しく明らかにした。また、これまで見逃されてきた『欽定説教集』の文言がシェイクスピアの諸劇作品の文言に及ぼした注目すべき影響を探究した。

研究成果の概要（英文）：

I conducted a thorough investigation into the textual variations found between the Elizabethan editions of the two authorized *Books of Homilies* of the Church of England and their Jacobean edition of 1623, which has long been erroneously believed to be a 'reprint' of the former. I ascertained and inquired into the fact that the latter was in fact a much revised as well as corrupt edition of the former. Also, I inquired into the hitherto unrecognized but noteworthy textual influence that some sermons of the two *Books of Homilies* had exerted on various scenes of Shakespeare's plays.

交付決定額

（金額単位：円）

|         | 直接経費      | 間接経費      | 合 計       |
|---------|-----------|-----------|-----------|
| 2008 年度 | 1,500,000 | 450,000   | 1,950,000 |
| 2009 年度 | 1,000,000 | 300,000   | 1,300,000 |
| 2010 年度 | 1,000,000 | 300,000   | 1,300,000 |
| 総 計     | 3,500,000 | 1,050,000 | 4,550,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英文学・英語圏文学

キーワード：イギリス、英文学、シェイクスピア、キリスト教、イングランド国教会、英国国教会、欽定説教集、書誌学、イギリス・ルネサンス演劇、エリザベス朝、ジェームズ朝

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 『欽定説教集』二巻 (*The Two Books of Homilies*; 第1巻初版 1547 年; 第2巻初版 1563 年; 以下、適宜、『説教集』と略す) は、シェイクスピアの時代にイングランド国教会において毎週日曜日と祭日の礼拝中に朗読された欽定の説教集である。この時代にはイングランド国教会の日曜・祭日の礼拝への出席は全国民の義務であり、新聞もラジオもテレビも存在しなかった当時のイングランド社会においては、この国教会の説教集が同一メッセージをまったく同一の言葉で全国民に伝達できる唯一の「マスメディア」的言語媒体でもあった。また、この『欽定説教集』の教会での説教壇用の folio 版が 17 世紀から 18 世紀世紀末まで (1623, 1633, 1635, 1640, 1650, 1673, 1676, 1683 (London), 1683 (Oxford), 1713, 1726, 1757, 1766, 1799 年と) 断続的に出版され続けた事実から、この『説教集』の英国社会における歴史的な重要性が容易に推察できる。したがって、この『説教集』二巻本は、シェイクスピア研究のみならず、16-18 世紀のイギリス文学・宗教・思想・歴史・社会研究の第一級の基本文献であるはずである。にもかかわらず、この『説教集』のリプリント版は、1930 年代以降つい数年前まで、実に 70 年余りの長期間にわたって絶版状態が続き、きわめて入手困難であった。そのため、今日に至るまで、シェイクスピアの作品 (あるいは、同時代の英文学作品) とこの『説教集』のテキストとの関連性を総合的に考察した研究は皆無であり、これは現在のシェイクスピア研究 (そして、16・17 世紀英文学研究) の大きな「穴」ともいえる未開拓領域となっている。

(2) また、この『欽定説教集』二巻本の書

誌学的研究は、1859 年にオックスフォード大学出版より刊行された John Griffiths の校訂版 (*The Two Books of Homilies Appointed to Be Read in Churches*) にある ‘A Descriptive Catalogue of Editions of the Homilies to the End of the Seventeenth Century’ (pp. xlix-lxxvi) がこれまでその唯一の研究であり、『欽定説教集』の数々のエリザベス朝版と 1623 年のジェームズ朝版、そして、それ以降 20 世紀初頭までの数多くの (いずれもタイトルページに「エリザベス朝版のリプリント」と銘打たれた) 諸版のテキストの実際の関係はこれまでまったく研究されてこなかった。そのため、英米のシェイクスピア研究者やエリザベス朝研究者たちは、(当時の『欽定説教集』の諸版の中で唯一ファクシミリ版が刊行されている) 1623 年のジェームズ朝版をエリザベス朝版のテキストの reprint 版だと信じて疑わず、当然のことのように長年これを使用し続けてきた。

(3) なにより、この『説教集』は、これまで我々日本人英文学研究者にとってまったく縁遠い存在だった。英訳聖書とキリスト教思潮に非常に造詣の深かった碩学斎藤勇先生の名著『イギリス文学史』(初版 1949 年) を繙いてみても、この『欽定説教集』の名はなんと脚注にさえ出てこない。本申請者の知る限り、これまで『欽定説教集』とシェイクスピア、あるいは、他の英文学作品との関連性を論じる研究は日本では皆無であった。また、2011 年 5 月現在、NACSIS Webcat を使って日本全国の大学図書館の蔵書を検索してみても、この『説教集』の 16・17・18 世紀版の原本はただの 1 冊も見つからず、その二巻本の現代校訂版やリプリント版やファクシミリ版でさえ、日本中でわずかに

6冊しか登録されていない。

## 2. 研究の目的

### (1) 『欽定説教集』の書誌学的研究。

近年、多くの英米のシェイクスピア研究者（そして、16・17世紀イギリス研究者）は、エリザベス朝版の『欽定説教集』と、その「reprint」と銘打った（facsimile版の存在する）1623年のジェームズ朝版のテキストが、同一のものである、という初步的な誤解をしている。この『説教集』が17世紀以降もイングランド国教会で使用されつづけていた以上、まず多数のエリザベス朝版（1559-1595）のテキストの相関関係、そして、とくに1623年ジェームズ朝版とエリザベス朝版のテキストの相違の詳細、さらに、1623年版とそれ以降の数々の17・18・19・20世紀版のテキストとの関係をはじめて明らかにすることを目的とした。1859年のJohn Griffithsの校訂版以来初の詳細な『欽定説教集』二巻の書誌学的研究を行うことを目的とした。

### (2) エリザベス朝版『欽定説教集』二巻の宗教的言説とシェイクスピアの諸作品のテキストとの関連性の研究。

本申請者は、Oxford大学に2000年に提出した博士論文およびその後発表した2本の英文論文（‘The Bawdy “Talent” to “Occupy” in *Cymbeline*, *The Complaint of Rosamond*, and the Elizabethan Homily for Rogation Week’, *The Review of English Studies* 213, 27-51, 2003; ‘Samuel Daniel’s *The Complaint of Rosamond* and an Emblematic Reconsideration of *A Lover’s Complaint*’, *Studies in Philology* 104, 82-122, 2007）において、これまで見落とされてきた『欽定説教集』のテキストとシェイ

クスピアの『ソネット集』のテキストの関連性に着目し、シェイクスピアのライバル詩人的存在であった同時代人のサミュエル・ダニエルが『欽定説教集』の一説教のパロディを巧妙に仕組んだ argument を詩『ロザモンドの嘆き』（1592年初版）の中で編みだし、あかもこのダニエルの精緻な argument に対抗するように、シェイクスピアもまた『ソネット集』冒頭の procreation sonnets を書き、『ソネット集』中の『ある恋人の嘆き』（*A Lover’s Complaint*）を書いていた、という新説を提起した。また、このダニエルの『欽定説教集』のパロディと密接に関連するもう一か所の『欽定説教集』の文言のパロディを、シェイクスピアが『ヘンリー四世・第二部』第2幕で巧みに展開させていた、という発見の骨子を日本英文学会の『英文學研究』（84, 1-16, 2007）および英文論文の中で報告した（*Notes & Queries* 253, 191-94, 2008）。

本研究の大きな目的は、これらの本申請者の国際的にも先駆的な研究となった『欽定説教集』とシェイクスピアの作品との関連性の考察をさらに深め、これを探求することにあった。

## 3. 研究の方法

(1) まず、現在、日本の大学図書館にほとんど『欽定説教集』が所蔵されていない現状を鑑み、また、この『説教集』のイギリス研究における歴史的重要性を勘案し、将来的に日本のイギリス研究の重要な基礎資料として寄与すべく、科研費を活用して、この『説教集』の16世紀末から19世紀までの様々な版本（editions）を20冊ほど英米の古書店より購入した。そして、これらの版本を手元において、帝京大学図書館で利用可能な英文学文献のデジタルテキスト EEBO（Early English Books Online）と中央大学図書館所

蔵の STC マイクロフィルムを併用し、エリザベス朝時代の『欽定説教集』二巻の諸版のテキストと、これまでその「reprint」であると信じられてきた 1623 年のジェームズ朝版、そして、それ以降 19 世紀半ばまでの数々の諸版のテキストとの関係を可能な限りくわしく調べた。その際、John Griffiths 編纂の Oxford 版『欽定説教集』校訂版の詳細な textual apparatus を活用し、これを吟味検討し、諸版の間で異同の認められた夥しい単語の中から、とくに注目すべき 300 語あまりのキーワードを選定し、その諸版のテキスト中での異同を各キーワードについて一つ一つ確認する作業をおこなった。

(2) 本申請者が 2005-2008 年にすでに日本語で発表した『欽定説教集』とシェイクスピアの劇作品『テンペスト』、『夏の夜の夢』、『ヘンリー 4 世』2 部作、および、『リア王』に関する 4 つの論考に関しては、すでに議論の輪郭ははっきりしているので、これらの論考をさらに発展させ、精緻なインパクトのある英語の論文に仕上げるために、まず必要な二次研究資料を揃え、これを読み、考察を深めていった。そして、順次、これらの論考を英語論文として執筆していき、英米の主要な英文学研究誌に投稿することを目的とした。

また、これと平行して、平成 20 年度から 22 年度の 3 年間にわたり、『欽定説教集』の言説と全シェイクスピアの劇作品との包括的な関連性を見極めるべく、シェイクスピアの全劇作品を一つ一つ注意深く読み直していき、シェイクスピアがどれほど当時のイングランド国教会の『説教集』の言説を意識して劇作品を執筆していたのか、という全貌を明らかにすべく、この研究主題をさらに探求した。

#### 4. 研究成果

(1) エリザベス朝時代の『欽定説教集』二巻の諸版のテキストと、1623 年のジェームズ朝版のテキストとの関係をくわしく調べた結果、1623 年版が、エリザベス朝版の「reprint」であるとそのタイトルページに明記しており、また、その巻頭にはわざわざ「The Preface, As it was published in the year 1562」と銘打った緒言が印刷されているにもかかわらず、じつはエリザベス朝の 1582 年版のテキストを多々変更した改訂版であり、とくに、宗教用語と性的な意味合いを含む（あるいは、含みかねない）言葉をひそかに多数改訂しており、そのうえ、印刷時におびただしい誤植が混入した非常に問題の多い edition でもあった、という事実を詳細に解明できた。

さらに、この『欽定説教集』のエリザベス朝最後の版本である 1595 年版とジェームズ朝初版本である 1623 年版との間に、なぜ 30 年近くの長いギャップがあったのか？また、イングランド国教会は、エリザベス朝版を大幅に改訂した版本であるこの 1623 年ジェームズ朝版に、なぜわざわざエリザベス朝版の「reprint」であるという種々の「偽装」工作をほどこしたのか？という非常に不可解な謎に対してもきわめて可能性の高い答えを見出すことができた。この発見を 6000 語の論文にまとめ、Oxford 大学出版の専門誌に投稿すると、すぐに掲載が決定した。(Notes & Queries 254, 629-35, 2009)

この書誌学的論考は、これまで英米のシェイクスピア研究者もエリザベス朝の歴史・文学・宗教研究者たちも、ファクシミリ版の普及した 1623 年版の『欽定説教集』を何の疑いもなく常用してきた、という現状に警鐘をならす大きな成果である、と思われる。

(2) 上の『欽定説教集』の書誌学的研究過程において、現代英語で「宇宙」を指す言葉としてももっとも頻繁に使用されている SPACE という単語のこの意味の起源が、OED にあるように 1667 年のミルトンの『失樂園』の一節にあるのではなく、じつは、その『失樂園』の一節が影響を受けている可能性がきわめて高い 1582 年版の『欽定説教集』の一節にあり、この一節が 1623 年版以降 19 世紀半ばまでのすべての『欽定説教集』の諸版において継承され、この一節が長年英国国教会の説教壇から読み上げられてきた結果、いつしか SPACE が「宇宙」という意味で人口に膾炙するようになったと推測される、という興味深い発見を報告した。(Notes & Queries 254, 36-39, 2009)

(3) シェイクスピア晩年の作品『テンペスト』の緊迫した一場面の背景に、『欽定説教集』数箇所<sup>1</sup>の文言がじつは重要な下敷きとして影響しており、その結果、そのシーンでのセリフがこれまでまったく想像すらされてこなかったような奥深い意味を含む言葉となる、という発見を報告した。(Notes & Queries 255, 405-08, 2010)

(4) 『テンペスト』に『欽定説教集』を下敷きにしたセリフが多々散見される、という発見を探求していく過程において、『欽定説教集』との関連から本申請者が発見した、『テンペスト』と(フランスの偉大なる哲学者)モンテーニュの『随想録』に収録された有名なエッセー「食人種について」との間の、これまで英米の研究者たちに完全に見落とされてきた緊密な関連性を詳細に明らかにした英文論文を、昨年春にアメリカの著名な英文学研究誌に投稿、その掲載が決定した。

(Studies in Philology 109, 2012)

## 5. 主な発表論文等 〔雑誌論文〕(計 6 件)

① Kenji Go, 'Montaigne's "Cannibals" and *The Tempest* Revisited', *Studies in Philology*, vol. 109, no. 3 (2012)  
(ページ数未定) (査読有)

② Kenji Go, 'Biblical Echoes in the "Roar" of "Lions" in *The Tempest*, II.i.313-14', *Notes & Queries*, vol. 255, no. 3 (2010), pp. 405-08. (査読有)

③ Kenji Go, 'A Bibliographical Note on the 1623 Jacobean Edition of the *Books of Homilies*', *Notes & Queries*, vol. 254, no. 4 (2009), pp. 629-35. (査読有)

④ Kenji Go, 'The Origin of the Cosmic Sense of "Space" and the *Books of Homilies*', *Notes & Queries*, vol. 254, no. 1 (2009), pp. 36-39. (査読有)

⑤ Kenji Go 「書評: Brian Vickers, *Shakespeare, A Lover's Complaint, and John Davies of Hereford* (Cambridge University Press, 2007). xii+329pp.」 *Notes & Queries*, vol. 254, no. 1 (2009), pp. 143-45. (*Notes & Queries* 編集長よりの執筆依頼書評)

⑥ Kenji Go, 'On the Origin of the "Common Houses" as Brothels in *Measure for Measure*', *Notes & Queries*, vol. 253, no. 2 (2008), pp. 191-94. (査読有)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

郷 健治 (GO KENJI)

帝京大学・外国語学部・教授

研究者番号: 50266285

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者